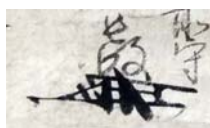
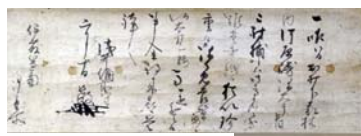


古今当在

浅井長政の感状

かんじょう

写真に示した浅井長政の感状は、大津市北小松の郷士（地侍）伊藤晋家の文書に含まれ、文面はほぼ次のようになります。



（其方が）昨八日、打下（村）の林の中で河原崎弥太郎を討捕り、名をあげたことは手紙には尽くしがたく、めでたい。これからも忠節を尽くすよう太刀一振、馬一匹をつかわす。

二月十日

浅井備前守長政（花押）

伊藤等菊 御宿所

ここからは、元龜二年（一五七二）志賀の陣の前後、伊藤等菊が織田信長家臣の河原崎家吉と覚しき河原崎弥太郎を討取り、そのため浅井長政が褒美として太刀と馬を与えた事が推測されます。正文を示す花押は、長政の二文字をアレンジしたともいわれ、力強くおしゃれなものです。感状は主に軍役での功勞に対して発給され、恩賞のための証拠ともなりました。家門の名譽であり、これも軸に仕立てられ、桐箱に大切に保管されていました。

長政は天正元年（一五七三）八月小谷城において、二九歳の若さで自刃します。伊藤氏もまた天正一六年に討死しますが、七歳の男子は助命され後の伊藤家の祖となりました。同家は江戸時代を通して、北小松の鎮守樹下神社の神官、村の有力者として近隣

との相論や幕府への訴訟に大きな役割を果たしていきます。

伊藤晋家文書の中世分には、他にも坂本で善政をしいた明智光秀の書状や、台頭する信長に抵抗した近江国守護六角氏関係の文書数点、小松惣荘の相論文書等が含まれます。また、これらとは別に北比良の莊園絵図一点が、京都国立博物館に寄託となっています。中世から近世・近代に至る村の様相が明らかになるこの文書群は、今年四月から閲覧に供しています。

（史料館助手 堀井靖枝）

二〇一六年一〇月から二〇一七年三月までの史料館の動き

◇展示

平成二八年度企画展「東日本大震災五年 近江商人とみちのく」
一〇月一日（火）～十一月二日（金）

【関連講演会】

一〇月二日（土） 一三時三〇分

「中井家文書にみる江戸時代仙台の災害」

東北大学災害科学国際研究所 佐藤大介氏

【ギャラリートーク】

一〇月二日（土）

一〇月一三・一四・二七・二八日、十一月一〇・一一日（木金）

◇整理終了史料

「南部辰右衛門家文書」一一九点、「山根甚左衛門家文書」二二五点、

「谷村英雄家文書」六五点、「谷村英雄氏文書」二〇点、

「西川瀬右衛門家文書」二七点、「福性寺文書」三〇点、

「中多良村田中文書」四五点、「岩佐九兵衛家文書」四一八七点

発行 滋賀大学経済学部附属史料館 TEL 0749-77-11046
<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/shiryō>